

## 事業名 ジュニアジオガイド講座（全3回）

[主催]	国立阿蘇青少年交流の家
[共催]	環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所 阿蘇ジオパーク推進協議会 阿蘇火山博物館
[後援]	熊本県教育委員会 阿蘇市教育委員会
[期 日]	第1回 令和5年9月 2日（土）～9月 3日（日）【1泊2日】 第2回 令和5年9月23日（土）～9月24日（日）【1泊2日】 第3回 令和5年9月30日（土）～10月1日（日）【1泊2日】
	全て同じ参加者
[活動場所]	国立阿蘇青少年交流の家及び阿蘇の草原
[参加者]	小学5年生・6年生 18名
[講師]	第1回 永田 紘樹 氏（阿蘇ジオパーク推進協議会 事務局長） 薄井 良文 氏（WakuWakuOFFICE あそ Be 隊 隊長） 市原 啓吉 氏（町古閑牧野 組合長） 第2回 山下 淳一 氏（阿蘇くじゅう国立公園管理事務所 国立公園保護管理企画官） 飯田 映美 氏（阿蘇くじゅう国立公園管理事務所 レンジャー） 木部 直美 氏（阿蘇グリーンストック 環境教育チーム） 第3回 久保 堯之 氏（みなみあそ観光局 戦略統括マネージャー）
[アドバイザー]	全3回 渡邊 裕介 氏（阿蘇ジオパーク推進協議会 次長） 高嶋 信雄 氏（阿蘇ジオパークガイド協会）
[担当職員]	阿蘇青少年交流の家5名 法人ボランティア4名

### 1 趣 旨

阿蘇の草原を教材として活用することで、自然を愛する心情を育成する。また、問題解決学習をとおして、科学的思考力と課題解決能力、自ら学ぶ意欲を育成する。さらに、学んだ事を基に草原の役割や重要性について発信することで、豊かな表現力を育成する。

### 2 目 標

- ・ 参加者の8割が探究活動に「満足」を感じることができる。
- ・ 参加者の8割が草原の役割や保全についてわかり、その重要性について実感することができる。
- ・ 参加者の8割が多様な他者との関りについて、そのよさを実感することができる。

### 3 事業展開

#### (1) 研修プログラム

##### 【第1回】9月 2日（土）～9月 3日（日）「阿蘇の歴史と観光」

活動内容：草原トレッキング／草原ビンゴ／中岳火口見学／古坊中草原散策  
講 話：阿蘇ジオパークについて

##### 【第2回】9月23日（土）～9月24日（日）「草原と生き物」

活動内容：杵島岳登山／阿蘇山上ビジターセンター／草千里ヶ浜／大観峰  
講 話：草原と水の関係について／阿蘇の暮らしと草原について

**【第3回】9月30日(土)～10月1日(日)「草原の重要性」**

活動内容：熊本地震震災ミュージアム見学／擬似野焼き体験／大観峰  
講 話：震災と草原の関係について

**(2) 活動の様子**

【第1回】



【草原トレッキングの様子】

【第2回】



【杵島岳の山頂】

【第3回】



【震災ミュージアムでの説明】



【草原ビンゴの説明】



【草千里ヶ浜での説明】



【擬似野焼き体験の様子】



【古坊中散策の様子】



【大観峰での説明】



【大観峰ガイド案内】

**4 評価、成果と課題**

(1) 評価

①参加者の満足度

設 問	項目	満足	やや満足	やや不満	不満
「草原の重要性」について考える事ができましたか	回答数(人)	14	4	0	0
	割合(%)	78	22	0	0
草原の大切さを伝えるために、大観峰ガイド案内で自分の思いを伝えられましたか。	回答数(人)	16	2	0	0
	割合(%)	89	11	0	0
多くに人達との対話から、草原について重要なことを学ぶことができましたか。	回答数(人)	15	3	0	0
	割合(%)	84	16	0	0

## ②参加者の声

- ・ 阿蘇の自然や草原、野焼きについて多くの人達に伝えていきたい。
- ・ 阿蘇の草原は野焼きをして守られていることを知り、また、100年前より草原が減っているので、野焼きをして草原が減らないようにしていきたいと思った。
- ・ 阿蘇の自然を楽しみ、伝え、多くの人達に阿蘇の草原について興味を持ってもらいたい。

## (2) 成果

- 草原の役割や重要性、保全について大観峰でガイド案内を行う際、阿蘇の草原の下にある黒墨土を顕微鏡で見せたり、草原の特徴を紙芝居にして物語にしたりして、今まで学んできたことを工夫して多くの人達に伝えることができた。
- 阿蘇ジオパーク推進協議会と連携しプログラム編成を行ったことで、草原に特化した活動を提供することができた。また、全3回の活動全てにアドバイザーとして帯同してもらったことにより、子供中心の活動を行うことができたり、活動中の子供達から出された細かな疑問や気づきに迅速に対応することができたりした。
- 法人ボランティアに対して事前研修を行うことで、「事業の目的」「育てたい児童の姿」「児童に必要な支援は何か」などを共通理解することができた。事業当日にはそれがうまく作用し、法人ボランティアがねらいを明確にして児童のサポートを行うことができた。そのことから、法人ボランティア育成の点からも成果を挙げることができた。

## (3) 課題

- 今年度は、ジュニアジオガイド講座に応募してきた児童の人数が昨年度よりも少なかった。小学校の運動会シーズンと丁度重なるため、実施時期について再考する必要がある。
- 野外での探究活動がメインになるので、雨天時の活動についての代替案が難しい。小雨なら実施可能だが、大雨時には延期で対応したとしても、延期日も大雨が降ればガイド案内が難しくなる。